

質問

今年7月に産業建設常任委員会で長野県の小布施町、志賀高原スキー場と湯田中温泉を抱える山之内町、北八ヶ岳の高千穂高原を運営する佐久穂町など当町と同じ観光産業を基幹産業とする町に視察に行つてまいりました。この中で特に印象に残つたのが小布施町のオープンガーデンです。これは庭園所有者の厚意と善意のボランティアにより個人の庭を町民・観光客などに開放し、花などの観賞を通して相互交流を目的としたものです。湯沢町のアーバンリゾートシティサーティ計画にも花水木構想を基調とした美しい町づくりが提唱



師田 保

され、美しい花々が溢れる町としてのイメージが町民はもとより観光客にも定着しているところでもあります。そこで当町もこの小布施町のようなオープンガーデン方式を取り入れ、新たな花構想で町の魅力を創造していくことも観光立町宣言の町としての課題だと考えます。この制度の創設について町長の考えを伺います。

町長答弁

小布施町は平成元年から10年間をかけて花の町づくりのためにヨーロッパに視察を行い、参加者の皆さんがその結果を出したのが始まりと聞いております。私もこのオープンガーデンは大変良い制度であると思っております。担当課でもこれに湯沢町の独自の良さを加

え、どのような方法が最も適しているか現在検討を始めており、来年度には実現できるかと思っております。

二居スキー場全面廃止後の地域振興について

質問

昭和44年開設以来平成12年からの休止期間を含めて約29年間に亘つた二居スキー場も、本年度の全面廃止でついに終止符が打たれることになりました。全国的なスキー産業低迷の中で不採算部門の閉鎖は止むを得ない措置であることは承知しているところでありますが、平成6年の二居地域通年型観光振興ビジョン作成、平成10年のカッサダム周辺活用計画作成など、町も積極的にスキー場閉鎖後の二居地域活性化案を考えてきた経緯もありま

す。スキー場の全面廃止が現実となった今、二居地域住民はもとより、湯沢町全住民にとつてもこの2つの地域づくり計画は湯沢町の新しい観光施策として大いに期待しているところであり、この2つの地域振興計画のその後とスキー場閉鎖後の町の取り組みについて伺います。

町長答弁

二居地域通年型観光振興ビジョンおよびカッサダム周辺活用計画などは、二居地域の発展と将来像を探り、地域を乱開発から守り、進出する開発企業を二居地域の活性化の方向へ誘導するための指針でありましたが、残念ながらその後

現在でも今後の観光開発の参考にできる部分が多く含まれておりますので、二居地域のみならず町の観光振興策の参考資料として今後活用していくつもりです。二居地域の今後の取り組みについては、脇本陣のような旧所名跡やオツキーのようなミュージアムもある素晴らしい地域なので、今後廃止に伴う地域の皆さんとの懇談会の中でいろいろとお話をお聞きしたいと思います。

オープンガーデン制度の創設について

一般質問

残念ながらその後、壊により進出する企業が無くなり、眠ってしまったのが現状です。しかし計画作成から12年が経過した



長野県小布施町のオープンガーデン